

# 子やぎのかくれんぼ

4歳～99歳まで2～4人で楽しめます。

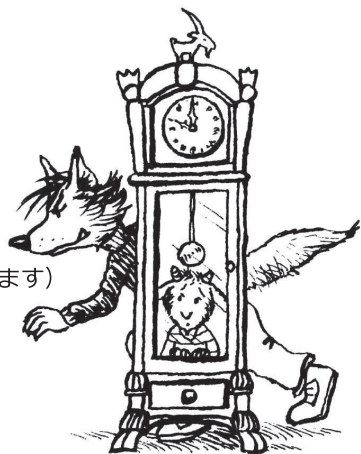
作者：Christine & Wolfgang Lehmann  
イラスト：Silvio Neuendorf  
所要時間：約15分

やぎのお母さん、今日のご用があって森にお出かけです。だけど、子どもたちを家に残していかなければならないのがとても気がかり。『誰もおうちに入れてはいけませんよ。悪いオオカミかもしれないからね。』とみんなにしっかり言い聞かせて出かけました。子やぎたちは、お母さんの言いつけをちゃんと守りましたが、ずる賢いオオカミは、みんなをだましてまんまと家に入ってきてしまいます。『さあたいへん！捕まったら食べられちゃう！』と、素早く身を隠す子やぎたち、オオカミの目をうまくくらますことができるかな？

ゲームの子やぎを助けるのはプレイヤーの記憶力次第。  
童話の中の子やぎたちがどうなったかを知りたい方は、  
説明書のP6『おおかみと7ひきの子やぎ』のあらすじをご覧ください。

## セット内容

隠れ場所(缶)：6個  
子やぎ：30匹  
オオカミ：1匹  
6色サイコロ：1個  
3色サイコロ：1個(やさしい応用ルールで使います)



## 気を付けて！

手元にオオカミがいるプレイヤーが、もう一度間違ってしまった場合、せっかく助けた子やぎを1匹、オオカミに奪われてしまいます。手持ちの子やぎ1匹とともにオオカミを円の真ん中に戻しましょう。ただし、このプレイヤーがまだ手持ちの子やぎを1匹も持っていない場合は、何もせずにオオカミを手元に残したまま、次のプレイヤーと交代します。

## 隠れ場所が空っぽ

ゲームが進んでいくと、子やぎが5匹ともプレイヤーに助けられて、隠れ場所が空っぽになることもあります。サイコロの色の隠れ場所に1匹もないことを言い当てたプレイヤーは、もう一度サイコロを振ることができます。子やぎを1匹助けるか、間違えるまで振り続けましょう。

## ゲームの終了

● 誰かが最初に7匹の子やぎを助けた時点でゲーム終了です。そのプレイヤーがゲームの勝者です。

もしくは…

● オオカミが先に子やぎを6匹捕まえた時点でゲームは終了となり、オオカミが勝利しプレイヤー全員の負けとなります。

## やさしい応用ルール

赤、青、黄色の3つの隠れ場所と、3色サイコロを使います。基本ルール同様、最初にそれぞれ5匹ずつ子やぎを隠れ場所の下に隠します。余った子やぎと隠れ場所、オオカミ、6色サイコロはこのルールでは使いません。基本ルールとの違いは、不正解の場合は何もせずに次のプレイヤーと交代し、誰かが最初に4匹の子やぎを助けた時点でゲームが終了します。そのプレイヤーがゲームの勝者です。

7匹の子やぎを  
助ける

それぞれの隠れ場所  
に子やぎを各5匹  
オオカミは真ん中  
サイコロを用意

サイコロを振る

出た色の隠れ場所には  
子やぎが何匹？

正解=  
子やぎを1匹

不正解=  
オオカミが接近！

2回連続不正解=  
手元の子やぎが  
オオカミに奪われて  
しまいます！

7匹の子やぎを  
助けた=勝者

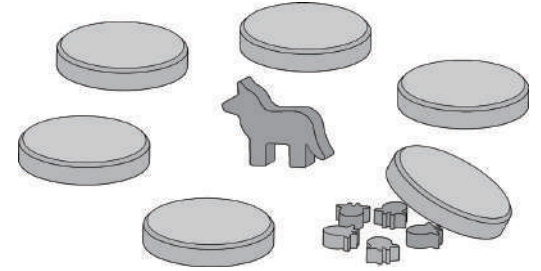
オオカミが6匹の  
子やぎを捕まえた  
=全員の負け

## ゲームの目的

どこに何匹の子やぎが隠れているかよく覚えておき、オオカミから7匹の子やぎを助けてあげる事がゲームの目的です。

## ゲームの準備

子やぎたちの隠れ場所は全部で6カ所。お風呂(緑)、台所(黄)、ストーブ(赤)、ベッド(橙)、机(紫)、タンス(青)と、それぞれ色が違います。これらを円になるように机の上に並べたら、それぞれの中に子やぎを5匹ずつ隠します。そしてオオカミを真ん中に置き、6色サイコロを手元に用意します。



3色サイコロはこのルールでは使わないので、箱の中に残しておきます。

## 遊び方

最年少のプレイヤーから始め、時計回りに順番を交代していきましょう。順番が来たら、最初にサイコロを振ります。そして、出た目と同じ色の隠れ場所には何匹の子やぎが隠れているかを大きな声で言いましょう。それから隠れ場所を持ち上げて、子やぎを数えて正解かどうか確かめます。

### ● 答えた匹数があった場合

隠れていた子やぎの中から1匹を助けることができ、自分の持ち分として手元に置きます。残りの子やぎは隠れ場所の中に入れておき、次のプレイヤーと交代します。

### ● 答えた匹数が間違っていた場合

残念、子やぎを1匹も助けることができませんでした。それどころかオオカミが目を光らせて、このプレイヤーの近くで子やぎを探し始めます。手元にオオカミを置き、次のプレイヤーと交代します。オオカミは次に誰かが間違えるまで、そのプレイヤーの手元に置いておきます。

## おおかみと7ひきの子やぎ

むかしむかし、ある所にやぎのお母さんと7匹の子やぎが住んでいました。

ある日、お母さんは子どもたちを家に残して森に出かけなくてはなりません。そこでお母さんは、子どもたちにしっかり言い聞かせました。『どんなことがあってもオオカミを家に入れてはいけませんよ。あなたたちのような小さな子やぎは、一口で食べられちゃうんだからね！ガラガラ声と黒い手足がオオカミのしるし。これにさえ気をつけておけば、誰かの振りをしてやって来ても、ちゃんとオオカミだと見抜けるはずよ。』そう言い残してお母さんが出かけてから、いくらもたないうちに、誰かが扉をたたきます。『ただいま！お母さんですよ。扉を開けてちょうだいな。みんなにお土産を持って帰って来たよ。』だけど、その声はお母さんとは似ても似つかないガラガラ声。そこで子やぎたちはオオカミだと怪しんで扉を開けませんでした。しばらくするとオオカミは、チョークを食べてお母さんやぎの声を真似て、またやって来ました。だけど黒い手足を見て子やぎたちはオオカミだと見破り、今度も扉を開けませんでした。オオカミもあきらめてはいません。今度は小麦粉をおしろいのように手足に塗って現れます。そこで、さすがの子やぎたちも安心して扉を開けてしまいました。さあ大変！子やぎたちは慌ててあちこちに身を隠しましたが、6匹は次々とオオカミに捕まってしまう。オオカミはあつという間に丸呑みして平らげてしまいました。助かったのは兄弟の中で一番小さな子やぎ、たった1匹。この子は柱時計の中に隠れていたのです。

おなかがいっぱいになったオオカミは、草原でひと眠りすることにしました。お母さんやぎが家に帰ると、7匹いたわが子がたったの1匹になっています。深い悲しみに打たれながらも、お母さんやぎは残った子を連れて外の様子を見に行きました。そして間もなく、眠りこけたオオカミを見つけます。大きく膨れたおなかの中で何かが右へ、左へ…と、時々揺れているのを見て、お母さんやぎは『あの子どもたち、まだこの中で生きていられるかもしれない…』と最後の望みにかけることにしました。お母さんやぎはオオカミのおなかを切り裂いて、子やぎたちを次々と助け出します。そして今度は、みんなで食いしん坊なオオカミのおなかに石を詰め込み、最後にお母さんやぎがオオカミのおなかを縫い合わせました。目を覚ましたオオカミは『喉が渇いたな。』と、泉に向かいます。ところが知らぬ間に入れられたおなかの石の重いこと重いこと。水を飲もうとしたとたん、オオカミはおなかの石の重さでバランスを失って泉に真っ逆さま。そのまま溺れ死んでしまいました。